狼少女を飼育してみました

桜一文字

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
狼少女を飼育してみました

【Ｎコード】
Ｎ８５８５Ｙ

【作者名】
桜一文字

【あらすじ】
主人公が入学する高校にはとある不思議が待っていた。
そこで彼は予期せぬ事態に巻き込まれて――！！
喧嘩少女が織りなす純愛ラブコメ。
いざ解禁。

プロローグ

僕の名前は山中聡（やまなかさとし）。
今日から鈴鹿（すずか）学園高等部一年になる、年若き十五歳だ。
僕がどうして数ある受験校のなかから、ここを選択したのにかはちょっとした理由（ワケ）がある。
もちろん本命の高校に滑ってしまったとか、イジめを受けていたから地元の人がいない場所を選んだとかそんな理由ではない。ただ単にこの学校が面白そうだったからだ。
それで、試験合格後に他にもなにか面白いコトとかないか訊いてみたところ、兄貴から一つ上の先輩としてこの学校について詳しく話を聞かされた。――――――で、その会話の途中で二つ程聞き捨てならない話題が飛び出してきた。
というのも……。

――――――どうやら僕がこれから通うこの鈴鹿学園には、七不思議ならぬ二不思議と呼ばれるモノがあるらしい。

一つは、この学園には狼の化け物がいるというコト。
訊いたトコロによると、そいつは学園の中で常にお面を装着しているらしい。――――――で。この話にはまだ続きがあって。そいつを目撃したヤツは必ず不登校になるんだってさ。
最初耳にした時はなんの冗談かと思ったよ。でも、この噂はあながち嘘じゃないらしい。というのも兄貴の友達もここに通ってたんだけど、ある日突然学校を来なくなったんだって。後はご想像通りだよ。それを心配した同級生たちが彼の家を訪ねてこう言われたらしい。

――――――狼の化け物に襲われた。それもただ単に襲われたんじゃなくて、下駄箱に置いてあった手紙で屋上に呼び出されてから。兄貴たちはノコノコ誘きだされる方が悪いって彼を笑い飛ばしたらしい。騙されかけていた自分たちのコトは棚に置いといて。

もう一つは、文化祭がとにかくスゴイというコト。

なにがスゴイって。とにかくスゴイんだ。

まず一つ。その日に告白すると成功率が九十五パーセントを超える。次に一つ。その日に好成績を修めたクラスは売上金を全てクラスの物に出来る。最後に一つ。その日に学園長に好感を抱かれると成績表がオール五になる。五段階評価の五ですよ。

……もはや常識の枠で抑えきれないというか……。

最後に至っては完全にテストの存在を否定してますしね。

マスコミにバレたら新聞の表紙を飾れるぞ、この高校。

――――――さてと。色々と考えていたら、学校に着いてしまった。下駄箱で上靴に履き替えた僕は、自分の教室を探す。たしか郵送されてきた紙には、一年C組になっていたから……。

お、あったあった。教室の扉を開けて早速中へと入る。失礼しま～す。

――――――ポン。

そんな効果音が僕の頭の上で響く。まさかこの歳でこんな悪戯をされるとは。鬱屈気味に手を頭に回し、落ちてきた物体を掴みとる。

――――――まさかのお肉様だった。しかも霜降り。

……。

……。

……。

なんで!?ここはベターに黒板消しじゃないの!?あと、ちょっと美味しそうかも……。

「ぷ……あは、あはははは」

神戸和牛（推定）を握りしめ、よだれを垂らすオレに向かって笑い声が巻き起こる。

「あは、　……キミ、スゴクいいね……。でもそれ、食品サンプルだから食べれないよ?」

目の前の女子が、聞き惚れる声音で僕に挨拶（?）を交わしてきた。　……判ってましたよ?だからそんな可哀想な目で僕を見ないで。せめて笑いこけてくれる方が精神的に助かります。

第一話

「不毛だ……なんで僕がこんな目に……」
ペラペラと部の予算案をまとめた資料をめくり、一人溜息をはく。茜色に染まった生徒会室には、僕の影しかない。
「うー、あー、もー、ない！ないよ！」
ついに胸の中にたまっていたイライラの靄が爆発。持っていた資料を壁へ叩きつける。きちんと閉じられていなかった何枚かのプリントがヒラヒラと宙を舞う。
「なんだよ『遊楽部』って！どこにもないよ、そんな部活」
一年生にこんなコトを任せるなんて、ここの生徒会はどうかしてる。自分で散らかした資料を拾い上げ、元の棚へと戻す。偶然廊下ですれ違った僕に、無理矢理仕事を押し付けてどこかに駆け出していった生徒会の人たちが戻ってくる気配はない。
「もう帰ろう」
椅子にかけていた学校指定の鞄を背負い、部屋を後にする。廊下の奥まで真っ赤に染まった小さな世界には、人の気配はない。腕にまかれた時計を確認すると、時刻はすでに六時を回っていた。
「完全下校時刻まであと一時間か」
そういえば、今日は牛肉の特売セールがあったんだっけ。ふと脳裏をかすめた肉の単語に二、三ど頭を横に振る。先週、クラスメイトの悪戯のお陰で、危うく僕のあだ名が『肉』になりかけたのだ。
「このお礼はどうするべきかな」
下駄箱へと向かうまでの間、薄っぺらな脳味噌をフル回転してみたが如何せん何の案も出ない。階段を一段一段降りるのすら嫌になってきた。　……仕方ない。周りに誰もいないし――。
「飛び降りますか」
飛ぶ、もしくは跳ねる。これが僕のストレス発散方法なのだ。

呼吸と身体のタイミングを合わせ、一番上の階段からジャンプ。着地の瞬間、足が地面に着くと同時に前へと転がり衝撃を。十年の月日、合気道で鍛えた体があるからこそ出来る技だ。少し埃の付いた制服を手で払う。

「帰りに本屋でもよろっかな」

後ろポケットから財布を取出し、金額確認。　……残金千二百円とな。

「バイト、始めるべきかな……」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8585y/

狼少女を飼育してみました

2011年12月11日13時48分発行